

臨時レポート

日経平均株価が年初来高値を更新

今後の米中協議の動向如何では日経平均株価の上値が重くなる可能性も

- ▶ 日経平均株価が10月16日、約半年ぶりに年初来高値を更新。米中貿易協議の進展による投資家のリスク回避姿勢の後退等が要因か。
- ▶ 今後の米中協議の動向等によっては日経平均株価の上値が重くなり、これまで以上に銘柄や業種の選別色が強まる可能性も。

(1) 日経平均株価が年初来高値更新

- 10月16日の日経平均株価は4営業日続伸して22,472.92円で引け、約半年ぶりに年初来高値を更新しました(図表1)。16日時点の騰落率は月間で+3.3%、年初来で+12.3%となっています。

(2) 株価上昇の主な要因

- ① 米中貿易協議の進展：トランプ米大統領は10月11日、中国との貿易協議で第一段階の合意に達したことを明らかにしました。中国側が米農産物の輸入拡大や通貨政策の透明化に取り組む見返りに、米国側は10月15日に予定していた一部中国製品への追加関税率の引き上げを見送ることを決めました。今回の合意で市場に安心感が広がったものと思われます。
- ② 円安進行による業績改善期待：8月半ばに一時1米ドル105円台半ばまで買われていた円が、投資家のリスク回避姿勢の後退等により10月16日には一時108円台後半まで下落しました(図表1)。輸出関連企業等の業績改善期待が高まったものと考えます。
- ③ 予想P E R (株価収益率)水準に照らした割安感：9月30日時点の日経平均株価の予想P E Rは12.8倍と、予想P E Rが20倍を下回って推移し始めた2013年5月以降では比較的低水準にあり、また過去(2013年5月1日～2019年9月30日)平均値14.9倍を下回っていました(図表2)。予想P E R水準に照らした相対的な割安感も支援材料になった可能性があります。

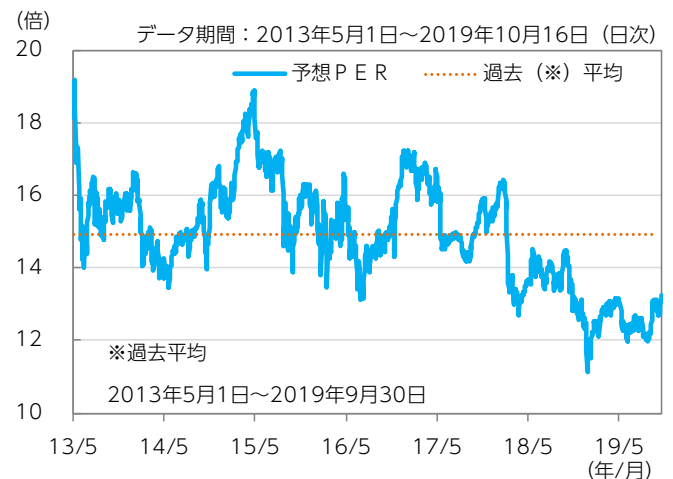
(3) 今後の見通し

- トランプ米大統領は今回の第1段階の合意文書への米中双方の署名等が終了後、中国のハイテク産業への産業補助金等の構造問題に切り込む考えを強調しています。その協議の進展状況如何では再び貿易摩擦の過熱化懸念が高まり、日経平均株価の上値が重くなることも想定されます。
- 年初から10月16日までのTOPIXベースの業種騰落率を見てみると、上位3業種と下位3業種の騰落率に比較的大きな差が生じています(図表3)。投資家のリスク回避姿勢で株式市場への資金流入が細る場合、騰落率格差の修正を見込んだ動き等銘柄や業種の選別が進むことも考えられます。

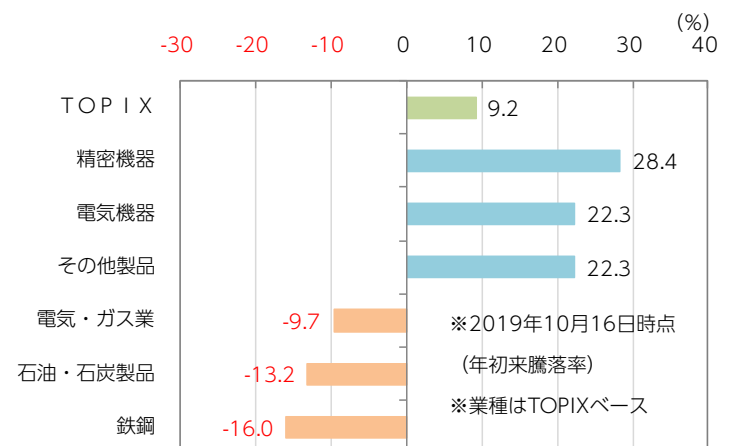
図表1：日経平均株価と円/米ドルレート



図表2：日経平均株価の予想P E R推移



図表3：業種別騰落率上位3業種・下位3業種



【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>